

2026

M3 カリキュラム

医療概論III

シラバス・コースガイド

2026 年 7 月～2027 年 1 月

2024 年度入学	第 51 回生用
2025 年編入学	編入学 25 回生用

M3 医療概論Ⅲ－１ シラバス・コースガイド

Coordinator: 前野 哲博, 堀内明由美, 小曽根早知子

1. コースの概要

医療概論Ⅲは以下から構成される。

- 1) 医療概論Ⅲ－１ 行動科学・行動医療学/地域ヘルスプロモーション(7月6日～16日、秋学期期間：集中)

行動科学・行動医療学については、本ガイドの3～7で記載する。

地域ヘルスプロモーションについては、7月の演習期間に健康教育の基本的事項を学びながら、地域における健康教育の企画準備を行い、9月以降に地域健康教育実習として茨城県内の地域で実際に住民を対象に健康教育を行う。

詳細は**地域ヘルスプロモーション実習書：コースガイド補冊**を参照。

- 2) 医療概論Ⅲ－２ ケア・コロキウム(12月7日～11日)

ケア・コロキウムは、医学群と東京理科大学薬学部合同の職種間連携教育をねらいとした1週間のプログラムである。

詳細は、**同プログラムの実施にあわせて配布するコースガイド**を参照。

2. 筑波大学卒業時コンピテンシーとの関連

・プロフェッショナリズム

豊かな人間性をもって、患者とその家族に対し思いやりと敬意を示すことができる。(レベル1)
多様な個や集団の価値観を尊重し、自身の想像力の限界を認識した上で他者を理解することの意義を説明できる。(レベル2)

・コミュニケーション

患者および家族に共感、敬意、思いやりをもって接することができる。模擬患者との面接において、心理社会的背景を考慮し、コミュニケーション技法を活用したコミュニケーションをとることができる。模擬患者に対し、病状をわかりやすく説明した上で、相手の意向を尊重したコミュニケーションができる。(レベル2)

グループ学習において、他職種など立場の異なるグループメンバーを尊重したコミュニケーションをとることができる。保健、医療、福祉の現場でケアに関わる各職種の視点や役割の違いを理解できる。(レベル2)

・診療の実践

基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を様々な疾患と病態の理解に応用できる。(レベル2)

・医療の社会性

実際の現場で、集団レベルの視点から問題点を抽出し、科学的に分析し、問題解決に取り組むことができる。(レベル3)

実際の現場で、地域のニーズを意識し、地域の特性を活用するよう意識して行動できる。(レベル3)

指導の下で個人・集団を対象とした予防活動を一部実践できる。(レベル3)

・未来開拓力

国内外の文献や書籍を検索し、適切な情報を入手することができる。社会における多様性を認識し、受け入れる姿勢を示すことができる。(レベル2)

困難な状況において既成概念にとらわれることなく、諦めずに粘り強く解決にあたることができる。(レベル3)

場に応じて、自分の考えを相手にわかりやすく、適切にプレゼンテーションができる。(レベル3)

場に応じて教育を実践し、自らの学びを深めることができる。(レベル3)

チーム活動の場において、メンバーと協働し、目標の達成に向けてリーダーシップを発揮できる。(レベル 3)

3. 医療概論Ⅲ－1 行動科学・行動医療学の到達目標(コースにおいて学んで欲しいこと)

Goal

ヘルスプロモーションの概念に基づき、人間の心と行動の成り立ちを理解して、地域住民や患者、家族に対し、その個人差やライフサイクルをふまえた健康を維持向上するための助言を行う。

Objectives

- ・ヘルスプロモーションの目的、概念を理解する。
- ・Prochaska の行動変容のステージを列挙し、個々のステージの特徴を説明できる。
- ・人々の健康の維持・向上に必要なセルフケアに必要な「ヘルスリテラシー」の意義を理解して、その普及にむけて医療者の果たす役割を述べることができる。
- ・一人一人の多様な価値観を尊重し、ライフステージを踏まえ各段階に必要なセルフケア支援の計画を立案し、医学生として参加することができる。
- ・地域住民の健康の維持・増進に効果的な働きかけを行うために、健康行動理論に基づく健康教育の立案実施、支援に関わることができる。
- ・現代の健康格差社会の実態とそれを取りまく健康の社会的な決定要因(SDH: Social Determinants of Health)の意義を説明できる。
- ・社会における多様性(性の多様性など)を認識し、個や集団の価値観を尊重し、無意識のバイアスの存在を自覚した上で、自身の想像力の限界を認識した上で他者を理解することの重要性を理解する。
- ・将来医師としてキャリアを重ねる時に必要なセルフケアを行うと同時に、ワークライフバランスをとることの大切さに気づき、そのあり方の多様性をイメージできる。

4. 学習の進め方

行動科学・行動医療学に関する講義と、セルフケア支援演習(夏休み課題を含む)から構成される。講義では課題実践のための基礎知識を修得する。セルフケア支援演習1, 2では、課題実践のための具体的な計画と実践するためのブラッシュアップを行う。

課題 身近な人へのセルフケア支援の立案と実践

身近な人(家族、友人など)が健康の維持・増進を行うためのセルフケア支援計画を立て、実際に指導を行う。

7月6日2時限 医療概論Ⅲオリエンテーション(参加必須)

コースの概要およびセルフケア支援の課題を説明する。行動科学と行動変容、ヘルスリテラシーなどのコース内の講義を参考にして、manaba からセルフケア支援計画書(ワークシート)フォーマットをダウンロードして作成する。

提出締め切り: 7月8日13時30分(課題ありの実習として、7月8日2, 3時限を設定)

7月9日セルフケア支援演習1・11日セルフケア支援演習2(参加必須)

演習1ではセルフケア支援に関する(総合診療・家庭医療的なアプローチ、演習2では文化人類学的アプローチについて説明・討論を行う。演習後にセルフケア支援計画書(ワークシート)のブラッシュアップを行い、改訂した計画書を、manaba に提出する。(締め切り: 7月17日)

ワークシートを提出後、夏休み期間を用いて各自で身近な人へのセルフケア支援を実践し、課題2レポートを作成する。

課題レポートは、下記の構成で記すこと。(フォーマットをダウンロードして使用する)

タイトル(テーマ)

(1) 対象者について

(あなたとの関係、年齢・ライフステージ、どんな生活をしてきたか/しているか、人生における価値観など)

(2) 対象者の健康に影響を与えてきた/与えているだろう要因

対象者が生きてきた環境や、ライフスタイルや健康の社会的決定要因などの観点から情報収集

する。

(3) セルフケア支援の目的

誰を対象に何をゴールとして支援を行うか、その目的が対象者にとってどのような意味をもつか。

*留意事項 対象者の健康に影響を与えるテーマについてゴール設定すること。

(1) (2)の事項とのつながりを踏まえて目的を設定できていることが重要です。

(NG 例 遅刻が多い友人に対する遅刻しないようにするための行動変容)

(4) 支援の方法

- ・準備（対象者の価値観、関心事についての情報収集、行動変容のステージの分析など）
- ・上記にあわせたセルフケア支援の方法
- ・対象者とのコミュニケーションの工夫
- ・効果の測定法（短期、長期）

(5) 実践結果

(6) 考察

実践結果の吟味（うまくいった/いかなかった理由を含める）

セルフケア支援の実施の後に、あらためて振り返って設定したテーマ（目的）や成果が支援の対象者にどのような意味をもっていたのか、自分と対象者の関係性がどのように影響したかを考察する。

(7) 参考文献

*基本的に一ヶ月以上の取り組み・フォローの成果を記載してください。

数日間など限定的な取り組みであったり、支援への取り組みが不十分、記載内容が浅いなどの場合、後日再度セルフケア支援を実施した上での再提出になります。

*講義で学んだことに加え、設定したテーマについて、自分で調べたことを実践に取り入れること。

(4)の実践結果がもともと目標としていたことに到達・成功したか否かだけでなく、（うまくいってもいなくても）一連のプロセスを振り返り、うまくいった点と理由/よりよい成果をだすための具体的な改善点を記すことを、課題のねらいとしている。

提出 manaba M3_医療概論III 9月15日まで

この他に、地域ヘルスプロモーションについて、別途実習書：コースガイド補冊を参照のこと

5. 他の授業科目との関連

- ・M2 医療概論II 行動科学入門で、心と行動のメカニズム、家族のライフサイクル、セルフケアについて学びました。本コースでは更に、他者へのセルフケア支援を行う上で必要な理論を学び、健康教育の実践を学びます。
- ・M5 総合診療科CC/医療概論Vにおいて、茨城県内の地域の医療機関において4週間の実習を行い、その中で地域における健康教育を実践する他、住民の多様な価値観や健康の社会的決定要因について現場の中で学びます。

6. リソースパーソン

自習やグループ学習で疑問が解決しない時など、積極的に活用して下さい。

教員名

<行動科学・行動医療学>

市川 政雄（国際社会医学分野 教授）

吉本 尚（総合診療科、地域総合診療医学 准教授）

堀内 明由美（総合診療科、地域医療教育学 講師）

阪本 直人（総合診療科、地域医療教育学 特任講師）

小曾根 早知子（総合診療科、地域医療教育学 講師）

孫 瑜（総合診療科、地域医療教育学 特任講師）

新田 千枝（地域医療教育学 助教）

河野 禎之（人間系障害科学域 助教）

橋本 恵太郎（総合診療科、地域医療教育学 助教）

鈴木 李理（総合診療科、地域医療教育学 助教）

瀬尾 恵美子（総合臨床教育センター 病院教授）

7. 教科書・その他の学習リソース

- ・医療・保健スタッフのための 健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に 松本千明著 医歯薬出版 2002 年
- ・医療・保健スタッフのための 健康行動理論 実践編 生活習慣病の予防と治療のために 松本千明著 医歯薬出版 2002 年
- ・みんなのヘルスプロモーション ～私たちの健康はみんなとつくる～ 鈴木美奈子・福田洋・阪本直人 編著 弘文堂 2025 年
- ・格差時代の医療と社会的処方～病院の入り口に立えない人々を支える SDH（健康の社会的決定要因）の視点 武田裕子編集 日本看護協会出版 2021

8. 評価

医療概論Ⅲの単位取得条件：

- ・下記 1) ～ 2) の全てに合格していること（一つも D 評価がないこと）。
 - 1) 医療概論Ⅲ－1 行動科学/地域ヘルスプロモーション
 - 2) 医療概論Ⅲ－2 ケア・コロキウム
- ・コースで実施する講義に 3 分の 2 以上出席していること

評価に用いる項目、配分など

- ・医療概論Ⅲ－1 の成績は、行動科学テスト(40%)、セルフケア支援レポート・地域ヘルスプロモーション各種レポート (60%) を用いて評価する。
- ・行動科学テスト (7 月 13 日) は、テストまでに行う行動科学講義:後述の「10. 講義一覧の講義番号 2～6」で扱う内容で、コースで中心となる学習項目を扱う。不合格の場合には、9 月以降に再試を行う（後日通知）。体調不良などによる本試欠席の場合には、別途 7 月中に追試験を実施する（要事前連絡, 日程は後日通知）。
- ・総合成績 D の場合には、翌年度に不合格のコースのみ受講する（今年度の医療概論Ⅲ－1 またはⅢ－2 の成績は年度をこえて持ち越し可）
- ・セルフケア支援レポートの評価は、セルフケア支援を実施してうまくいったかだけでなく、下記の観点から評価する。
 - (1) インストラクションに沿った記載か
 - (2) 対象者にとって妥当で有意義な目的を設定した実施計画・実践であったか
 - (3) 講義と演習で学んだことを生かし、対象者の状況などを分析しそれにそった計画をたて実施したか
 - (4) 実施結果を振り返り、考察したか(よかった点と改善点をあげるなど)

参考

- ・ケア・コロキウムの成績は、コアタイムについてのチューターによる観察評価(50%)とレポート(50%)により評価する。
- ・医療概論Ⅲ総合成績は、講義時間数に基づき重み付けを行い合算して算出する。

＊留意事項

- ・各種演習・実習の無断欠席および、各レポートの提出がなかった場合は D 評価とする（正当な理由がなくレポートの提出が遅れた場合には、行動科学の成績は減点される。）。
- ・体調などにより演習・実習を欠席する場合は、事前に教務を通して連絡する（manaba コースニュースなどで担当教員から振り替え課題について連絡がある）

9. 対応する「医学教育モデル・コアカリキュラム」の項目とそれ以外の学習項目

本コースで扱うコアカリキュラムは多岐にわたる。該当する項目を含むものを列挙するが、各項目で設置されている小項目をすべて網羅するものではない。

PR：プロフェッショナリズム

人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で 診療にあたりながら、医師としての道を究めていく。

PR-01：信頼 社会から信頼を得る上で必要なことを常に考え行動する。

PR-01-01：誠実さ

PR-01-02：省察

PR-02：思いやり 品格と礼儀を持って、他者を適切に理解し、思いやりを持って接する。

PR-02-01：思いやり

PR-02-02：他者理解と自己理解

PR-02-03：品格・礼儀

PR-03：教養 医師に相応しい教養を身につける。

PR-04：生命倫理 医療における倫理の重要性を学ぶ。

PR-04-01：臨床倫理

GE：総合的に患者・生活者をみる姿勢

患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、心理社会的背景も踏まえ、ニーズに応じて柔軟に自身の専門領域にとどまらずに診療を行い、個人と社会のウェルビーイングを実現する。

GE-01：全人的な視点とアプローチ

GE-01-03：患者中心の医療

GE-01-05：行動科学

GE-02：地域の視点とアプローチ

GE-02-01：プライマリ・ケアにおける基本概念

GE-02-02：地域におけるプライマリ・ケア

GE-02-03：医療資源に応じたプライマリ・ケア

GE-03：人生の視点とアプローチ

GE-03-01 人生のプロセス

GE-03-02：小児期全般

GE-03-04：学童期、思春期、青年期、成人期

GE-03-05：老年期

GE-04：社会の視点とアプローチ

GE-04-01：医学的・文化的・社会的文脈における健康

GE-04-02：社会科学

LL：生涯にわたってともに学ぶ姿勢

安全で質の高い医療を実践するために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって 自律的に学び続け、積極的に教育に携わっていく。

LL-01：生涯学習

CM：コミュニケーション能力

患者及び患者に関わる人たちと、相手の状況を考慮した上で良好な関係性を築き、患者の意思決定を支援して、安全で質の高い医療を実践する。

CM-01：患者に接する言葉遣い・態度・身だしなみ・配慮

CM-02：患者の意思決定の支援とそのための情報収集・わかりやすい説明

IP：多職種連携能力

医療・保健・福祉・介護など患者・家族に関わる全ての人々の役割を理解し、お互いに良好な関係を築きながら、患者・家族・地域の課題を共有し、関わる人々と協働することができる。

IP-01：連携の基盤

IP-02：協働実践

S0：社会における医療の役割の理解

医療は社会の一部であるという認識を持ち、経済的な観点・地域性の視点・国際的な視野等も持ちながら、公正な医療を提供し、健康の代弁者として公衆衛生の向上に努める。

S0-01：社会保障

S0-04：社会科学の視点から捉える医療

10. 講義一覧

行動科学入門に関する講義・演習 一覧

	学習項目	担当教員	Keywords
1	医療概論Ⅲオリエンテーション/地域ヘルスプロモーション実習オリエンテーション	堀内 明由美 /新田 千枝 他	ライフサイクル、セルフケア、行動変容
2	ヘルスプロモーションとは	阪本 直人	セッティングズ・アプローチ、オタワ憲章、Well-being、USPSTF
3	行動変容・ヘルスリテラシー	阪本 直人	行動経済学、動機づけ面接、健康情報の信頼性評価、共同意思決定、Teach-back 法
4	ライフサイクルとセルフケア支援	小曽根早 知子	ライフステージ、ライフスタイル、セルフケア支援、健康の社会的決定要因
5	社会と健康格差	市川 政雄	健康格差社会、健康の社会的決定要因、貧困と健康、ソーシャルキャピタル
6	多様な個人～ジェンダー／セクシュアリティ	河野 禎之（人間系障害科学域/ヒューマンエンパワーメント推進局）	多様性、個人差、SOGI/LGBT、アンコンシャスバイアス
7	ヘルスプロモーション準備ワーク（演習）	阪本 直人/ 新田 千枝 他	みんなとつくる場づくり、ナッジ、ヘルスリテラシー、発想力、環境
8	医師のワークライフバランス	瀬尾 恵美子	キャリア、ワークライフバランス
9	セルフケア支援演習1（演習）	堀内 明由美	ヘルスビリーフモデル、ヘルスコミュニケーション、行動変容、価値観、
10	セルフケア支援演習2（演習）	中村 友香（人文社会学系）/照山 絢子（図書館情報メディア系）/堀内 明由美	文化人類学、社会環境、Self-Awareness、行動規範
11 12	地域ヘルスプロモーション講義シリーズ1～2（オンデマンド講義視聴）	地域ヘルスプロモーションテーマ1～4 担当講師＊	アルコール、フレイル、生活習慣病予防、行動変容、心の健康、食生活改善、運動発達、あそび
13	地域ヘルスプロモーション講義シリーズ（対面授業）	清野 諭（山形大学）	介護予防、アクションリサーチ、身体活動

＊地域ヘルスプロモーション 学習コースのテーマ・講師一覧（敬称略）

テーマ1【生活習慣病予防～食生活改善～】橋本 恵太郎（筑波大学医学医療系地域総合診療医学）

テーマ2【運動指導による健康づくり～子どもから大人まで～】中川 将吾（つくば公園前ファミリークリニック）

テーマ3【思春期・青年期 こころの健康指導】杉原 正子（まさこ心のクリニック自由が丘）

テーマ4【アルコール指導】吉本 尚（筑波大学医学医療系地域総合診療医学）

11. 時間割

WEB 時間割 <https://www.md.tsukuba.ac.jp/mdtt/> を参照

M3 カリキュラム
医療概論Ⅱ「行動科学」他
シラバス

2024 年度入学 第 51 回生
2025 年度 編入学 25 回生

2026 年発行
〒305-8575
筑波大学 医学群
